

ISTS スタイルチェックリスト

下記ガイドラインに従い、投稿前に原稿スタイルを確認してください。

- ・書誌情報は削除 (TeX で原稿を作成している場合、`\documentclass[ISTS]{tjsass}`とする。) ・ページ番号は不要
 - ・論文タイトル：各単語の1文字目が大文字
 - ・著者名：Family name は大文字フォントサイズ10pt, **2文字目以降のフォントサイズ8pt** ・第1著者名の前に“By”を入れる。
 - ・著者が3人以上の場合、各著者名の間にカンマ、最後の著者名の前は“,” and”とする。最後の著者名の後にカンマは不要
 - ・著者名の右肩に所属機関の番号を1)のように入れる。1)はカンマの後
 - ・所属機関名はイタリック, city name を忘れず入れること。
ただし、県名は不要。東京23区特別区の場合は、Tokyo を入れる。
 - ・キーワード：各単語の1文字目は大文字
 - ・アブストラクト開始は4文字インデント
-
- ・記号表：数字順に続きアルファベット順 (A, a, B, b, C, c, …, Z, z) , その後、ギリシャ文字(でアルファベット順： α , β , γ , …), 添え字も同様
-
- ・パラグラフ開始は2文字インデント
 - ・Major-heading タイトルは、各単語の1文字目は大文字
 - ・Major-heading タイトル後の文章は、1行空白行を入れてから開始
 - ・Sub-heading タイトルは、最初単語の1文字目だけ大文字
 - ・Sub-heading タイトルとMajor heading タイトルの間には1行空白行を入れる
 - ・Sub-heading タイトルの開始と1つ前の文章の間には空白行は入れない。
ただし、最初のSub-heading は例外とし、1つ前の文章との間に1行空白行を入れる。
(Template ファイルの3.1節, 4.1節の例を参照)
 - ・heading 番号と heading title 文字との間は2文字空白
-
- ・参考文献引用の“右肩)” は、カンマ、ピリオドのあと
-
- ・図の解像度は十分なものに
 - ・他の文献等から取った図表を含む場合、著作権委譲許可を著者自身で取ること。
 - ・図・表キャプションの最後にピリオド
 - ・キャプション文字は最初の単語の1文字目だけ大文字
 - ・図キャプション Fig. x. (2文字空白) キャプション. (xは図番号, 図番号の後にピリオドが必要)
 - ・表キャプション Table x. (2文字空白) キャプション. (xは表番号, 表番号の後にピリオドが必要)
 - ・図・表キャプションは1行の場合はセンタリング, 複数行に渡る場合は最後の行だけ左揃え, それ以外の行は両側揃え
 - ・図・表キャプションと本文の間には1行空白行を入れる。
 - ・表の最初と最後の横線は太線 それ以外は普通の太さの線。2重線にしない。縦線は入れない (表の縦のカラムの区別がつきにくいときのみ縦線を入れる。)
 - ・図を参照する際、文章開始時は、“Figure x”と書く (文頭では“Fig. x”とは書かない。) 文中では“Fig. x”と書く。Fig. と図番号xの間に1文字空白をいれる。

・ 1つの Figure に複数の図があり、区別するときは Figure 中に(a) (b)のように丸括弧で囲んだ識別アルファベットを入れる。本文中での参照は、文章開始時では、“Figure 1(a) (Figures 1(a) and 1(b)) ”，文章中では，“Figs. 1(a) (Figs. 1(a) and 1(b))” とする。

- ・ 式を参照する際、文章開始時は、Equation (x)と書く。
(文章中では、Eq. (x)と書く。Eq. と(x)の間に1文字空白を入れる。)
- ・ 表を参照する際、文章開始時、文章中ともに “Table x” と書き、省略しない。
- ・ 節を参照する際、文章開始時、文章中ともに “Section x” 等と書き、省略しない。
- ・ 式はセンタリング、式番号は右揃え丸括弧で(1)のように囲む。

・ 参考文献 heading (References)はセンタリング

・ 参考文献

著者名：全員書く：Family name, First name のイニシャル。

論文タイトルは各単語の1文字目は大文字（冠詞、前置詞は除く）

Middle name のイニシャル. と First name のイニシャル. との間に1文字空白を入れる。

3名以上の場合、最後の著者名とその前の著者名の間は，“, and” とする。6名以下
の場合は、著者名を全員記載する。

著者名が6名よりも多い場合にのみ、6名分の著者名を記載し、以降を et al. と省略することは可能

最後の著者名と論文名の間はコロン：

日本語の参考文献の場合，“(in Japanese). ”を最後に入れる。

書籍の場合：

著者名：書籍名(イタリック)、出版社名、出版都市名、年、該当ページ。年
は丸括弧で囲まない。

雑誌の場合：

著者名：論文名、雑誌名、巻号年ページは、volume number (year), pp. xx–yy. ists 特集号
の場合には、巻号年ページは、volume number, ists xx (year), pp. xx–yy. のように issue
number も入れる。

ページ番号の間は- (ダッシュ)

論文名各単語の1文字目は大文字

論文名はダブルコーテーションで囲まない。

雑誌名はイタリック、Journal of XX などの雑誌名は J. XX と略記表記する。

volume number はボールド、volume number と (year)の間に1文字空白

doi は不要

page が存在しないオンライン論文の場合、article ID 等を入れる。

pp. と xx-yy. の間に1文字空白

proceedings (国際学会) の場合：

著者名：論文名、Proceedings of 大会名、開催都市名、開催国名、
当該ページ(存在すれば) または論文番号、year.

Proceedings of 大会名はイタリックにしない。

Proceedings が紙媒体で配布されていない場合、Proceedings of 大会名の部分は、大会名
のみにする。

年は丸括弧で囲まない。

大会の開催回数(序数)の th は上付きにしない。

AIAA paper の場合 : 大会開催場所は不要. 著者名:論文名, AIAA Paper year-ID, year. と書く.

Web 上の文献 (URL) の場合, “(accessed Month day, year). ” を最後に入れる. Web 上の文献で日本語の場合, “(in Japanese) (accessed Month day, year). ” の順番とする.